

2011/3/9

柏の景気情報（平成23年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年2月分）

○ 調査期間 : 平成23年2月21日 ~ 2月25日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	68	63.6%
建設	19	15	78.9%
製造	23	14	60.9%
卸・小売	43	26	60.5%
サービス	22	13	59.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年2月の調査結果のポイント】

《業況DI 5カ月間で上下を繰り返す 業況感安定せず》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.7(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が▲8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28.5(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲38.4)、サービス業▲38.4(同▲27.2)、建設業▲20.0(同▲12.5)である。

【製造業】からは、「為替については昨年秋口での想定よりも若干円安に動いているため為替差益が生じる。来月も円安傾向を期待する」(ガラス・同製品製造業)、「円高に歯止めがかからず現状の相場では大手製造メーカーの海外生産部品の現地調達はさらに加速し日本の中小零細製造業は縮小していかざるを得ない。エコポイントや自動車の減税など所詮は国内需要に対する一時的な措置であり、輸出が回復しない限りは景気の状態は変化しないであろう」(その他の金属製品製造業)、「仕事量の減少で競争が年々厳しくなり、先行き販売価格の減少が考えられる」(一般産業用機械設備製造業)、「新聞上ではコンビニ、スーパーマーケットの売上げが伸びているとの記事が目につくが実際の消費が好景気状態になってきているのかが実感できない。結果としてお客様の設備導入につながっていないように思う」(その他の機械・同部分品製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「1月は創業180周年企画初売り等、前年より取り組み強化をして臨みました。入店客数は+2.1%上昇。平均気温は下降したものの、好天に恵まれたことも入店客数増、売上増につながったと思われます」(百貨店)、「たばこが全体を押し上げている。おでん等暖かい物が好調」(その他の各種商品小売業)、「3カ月で同業他社へ切替件数が約50件。価格改正の影響大」(燃料小売業)、「市内書店の撤退が相次いでいるがそもそもオーバーフローの状況に加え、売上不振、万引き増加による収益圧迫といった要因が推察され、決して他人事ではない現実に直面しております」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「サービス業飲食店のなかで今一番悪化しているのが居酒屋。社員を解雇し経費の削減を図った」(酒場・ビヤホール)、「従業員を募集すると応募者は多数来るが、採用できる人はいない」(獣医業)などの声が寄せられた。

◎原材料高騰

各業種から、「売上高はわずかながら上昇してきているが、材料の単価も上がっている。適正な価格と思えない程金額を提示され、理解に苦しむ」(電気工事業)、「小麦粉、砂糖、チョコレート、油脂、コーヒー等全ての原材料が値上がり傾向で深刻に」(菓子・パン小売業)、「原油高騰に伴う塗料シンナー類の価格上昇が心配」(塗料卸売業)、「宿泊の予約経路が直接からインターネット経由に変わったため、稼働は若干伸びたが一室単価を落とすことになり、利益率の悪化となる。小麦トウモロコシの値上がり等により、牛肉を含めた仕入価格の値上がりが不安である」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎購買意欲低迷

各業種から、「住宅エコポイント、既存住宅活性化事業等の助成金を利用して、業績を維持しているが、先行きが不透明なため消費マインドが低迷している」(一般土木建築工事業)、「陽気が寒く春物商品が動かない。価格の安い衣料品、装飾品は売れているが、高額商品は売れていない。消費者の購買意欲は依然低い」(その他の各種商品小売業)、「売上高は大きく落ち込みを見せた。中旬以降入店客数は回復しつつあるものの顧客の手堅い消費により買い上げ点数の減少、高額商品の不振、買い回り低下によりレジ客数の減少から、売上高は低調な推移が続いている」(各種商品小売業)などの声が上がってきた。

◎春物・新学期商戦

各業種から、「セールを開催したため売上は増ですが採算ベースは減少です。新学期商材に出遅れがあり、下旬に前年並みに移行。売上増の見込みですが、利益は当分減少の見込み」(その他の飲食料品小売業)、「毎年のことながら3~5月は新学期の売上げ増が見込まれます。今年は特に学習指導要領の改訂により、ゆとり教育より昔の教育に変わります。期待大です」(書籍・文房具小売業)などの声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	±0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	△12.5	▲51.7	▲28.5
12月	▲39.7	▲28.5	▲14.2	▲53.8	▲50.0
1月	▲28.7	▲12.5	▲30.7	▲38.4	▲27.2
2月	▲36.7	▲20.0	▲28.5	▲50.0	▲38.4
見通し	▲22.0	▲26.6	▲7.1	▲30.7	▲15.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.7(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が▲8.0ポイント拡大した。

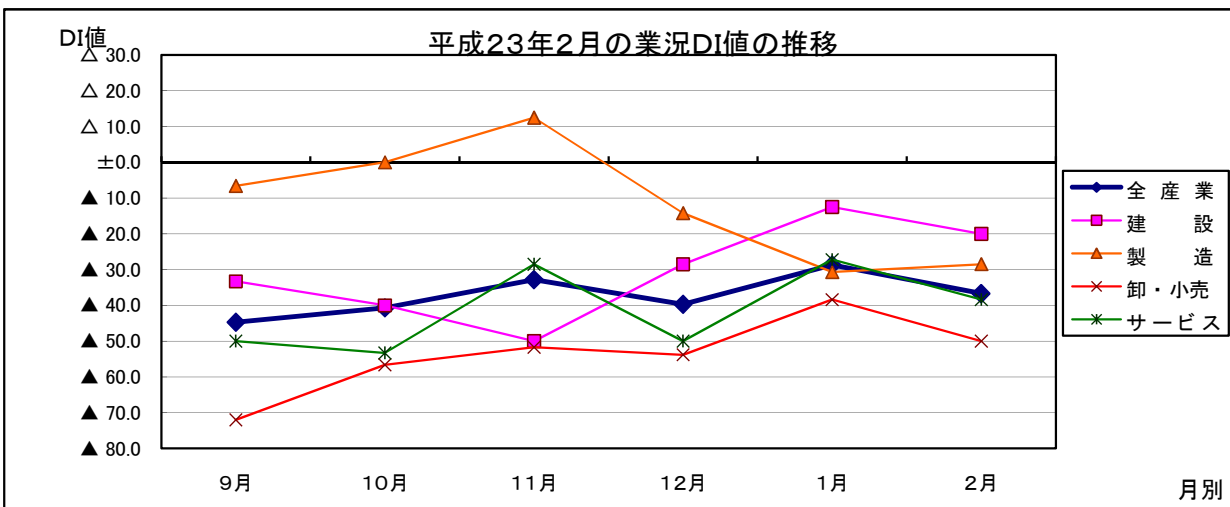
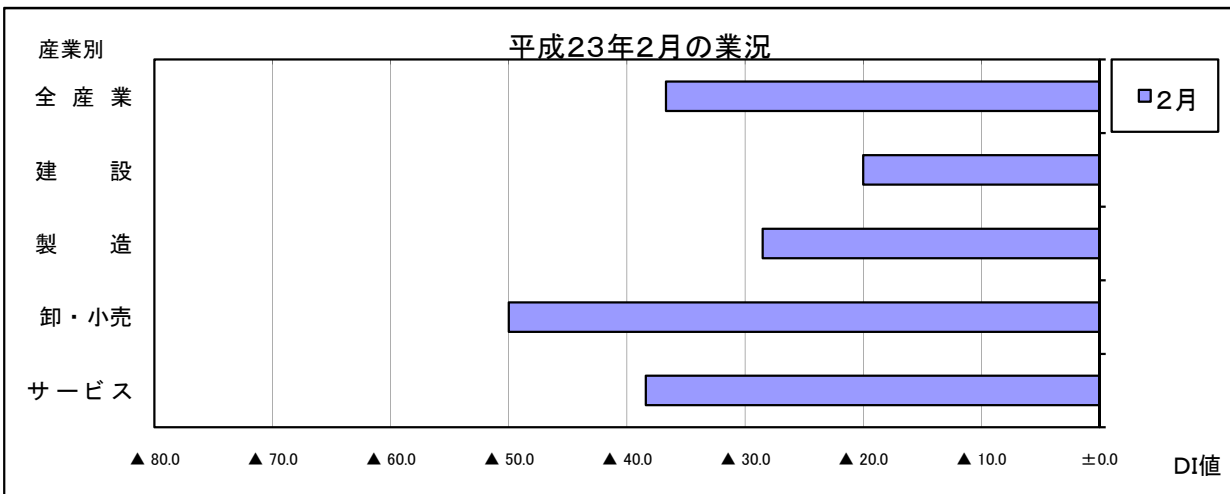
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28.5(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲38.4)、サービス業▲38.4(同▲27.2)、建設業▲20.0(同▲12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.0(前月水準▲31.8)となり、マイナス幅が△9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲38.4)、サービス業▲15.3(同▲36.3)、卸小売業▲30.7(同▲38.4)である。特に、製造業はマイナス幅が△31.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲26.6(同▲12.5)である。

平成23年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲44.7	▲40.7	▲32.8	▲39.7	▲28.7	▲36.7	▲22.0(▲31.8)
建設	▲33.3	▲40.0	▲50.0	▲28.5	▲12.5	▲20.0	▲26.6(▲12.5)
製造	▲6.6	±0.0	△12.5	▲14.2	▲30.7	▲28.5	▲7.1(▲38.4)
卸・小売	▲72.0	▲56.6	▲51.7	▲53.8	▲38.4	▲50.0	▲30.7(▲38.4)
サービス	▲50.0	▲53.3	▲28.5	▲50.0	▲27.2	▲38.4	▲15.3(▲36.3)



【平成23年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.2(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が△11.0ポイント縮小した。

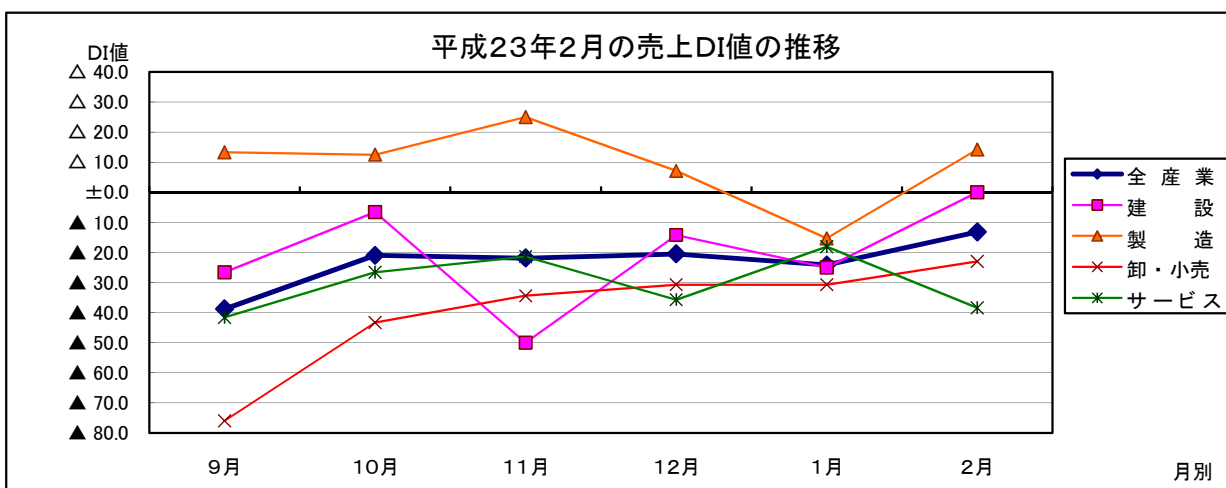
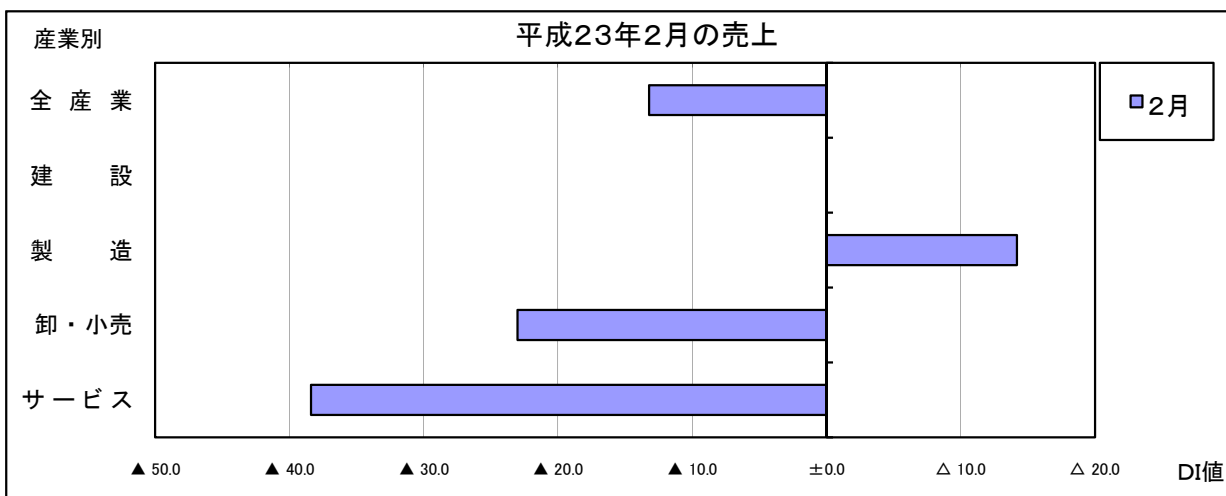
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△14.2(同▲15.3)であり、△29.5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲25.0)、卸小売業▲23.0(同▲30.7)である。特に、建設業はマイナス幅が△25.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲38.4(同▲18.1)であり、マイナス幅が▲20.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.4(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が△12.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△3.8(同▲15.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲23.0)、サービス業▲7.6(同▲18.1)である。特に、製造業はマイナス幅が△23.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲12.5)である。

平成23年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 38.8	▲ 21.0	▲ 21.9	▲ 20.5	▲ 24.2	▲ 13.2	▲ 4.4 (▲ 16.6)
建設	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 50.0	▲ 14.2	▲ 25.0	±0.0	▲ 20.0 (▲ 12.5)
製造	△ 13.3	△ 12.5	△ 25.0	△ 7.1	▲ 15.3	△ 14.2	±0.0 (▲ 23.0)
卸・小売	▲ 76.0	▲ 43.3	▲ 34.4	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 23.0	△ 3.8 (▲ 15.3)
サービス	▲ 41.6	▲ 26.6	▲ 21.4	▲ 35.7	▲ 18.1	▲ 38.4	▲ 7.6 (▲ 18.1)



【平成23年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.8(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大した。

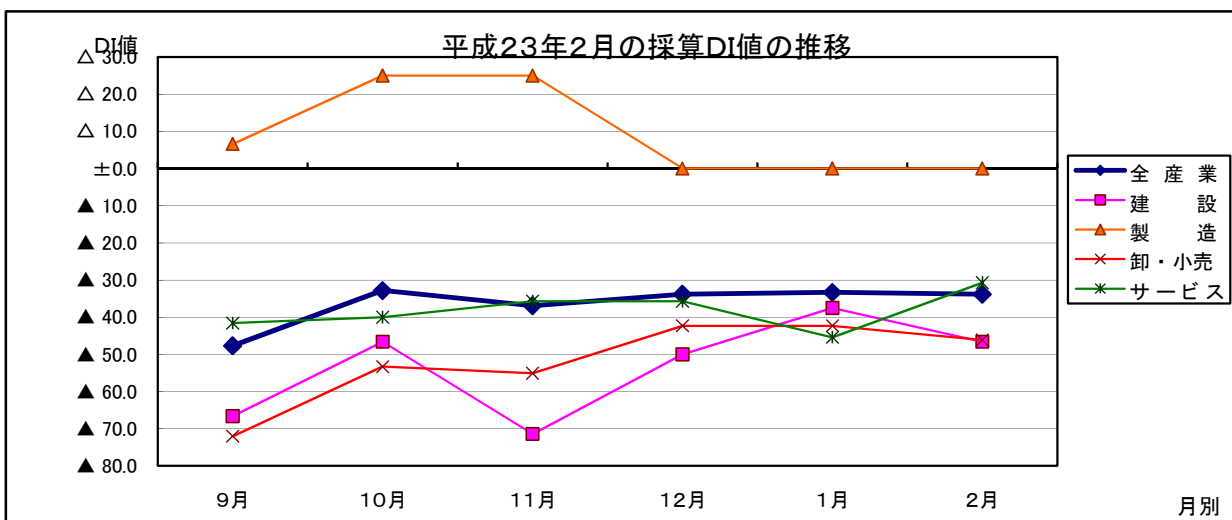
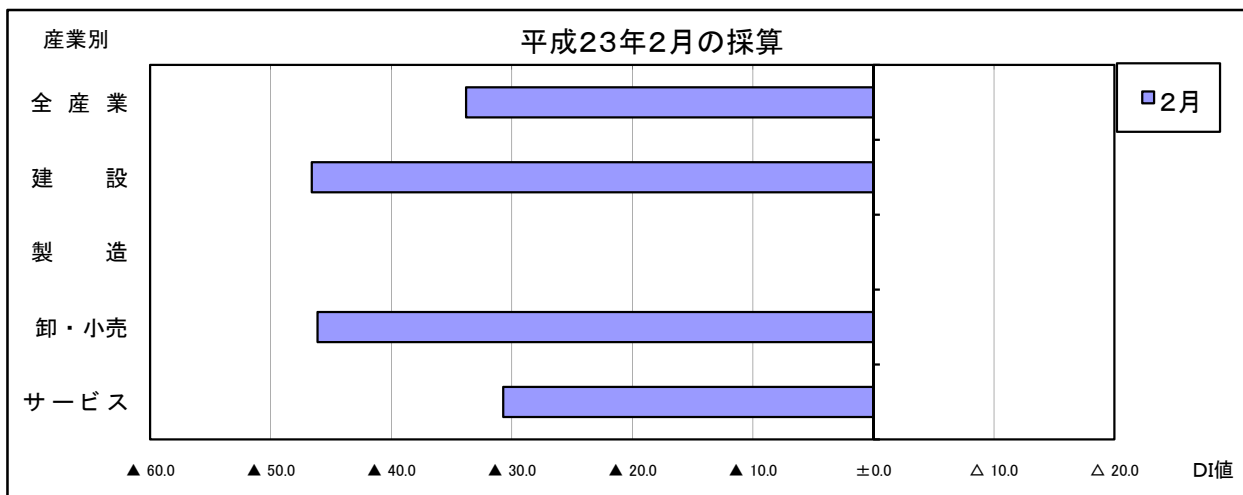
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲30.7(同▲45.4)である。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲37.5)、卸小売業▲46.1(同▲42.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.0(前月水準▲27.2)となり、マイナス幅が△5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同▲27.2)、製造業▲21.4(同▲38.4)、卸小売業▲19.2(同▲26.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲40.0(同▲18.7)であり、マイナス幅が▲21.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲47.7	▲32.8	▲36.9	▲33.8	▲33.3	▲33.8	▲22.0(▲27.2)
建設	▲66.6	▲46.6	▲71.4	▲50.0	▲37.5	▲46.6	▲40.0(▲18.7)
製造	△6.6	△25.0	△25.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲21.4(▲38.4)
卸・小売	▲72.0	▲53.3	▲55.1	▲42.3	▲42.3	▲46.1	▲19.2(▲26.9)
サービス	▲41.6	▲40.0	▲35.7	▲35.7	▲45.4	▲30.7	▲7.6(▲27.2)



【平成23年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.4(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

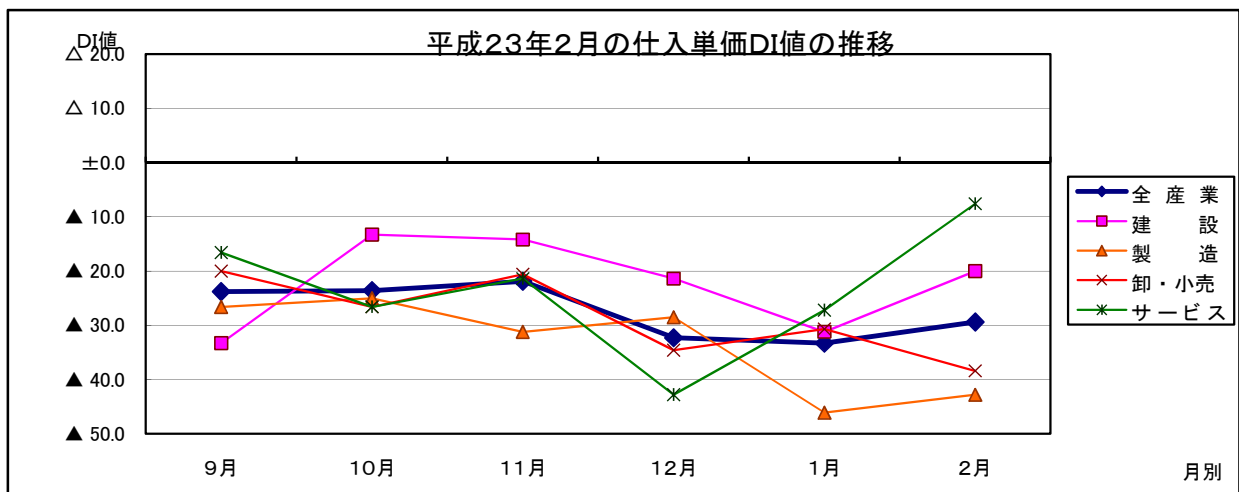
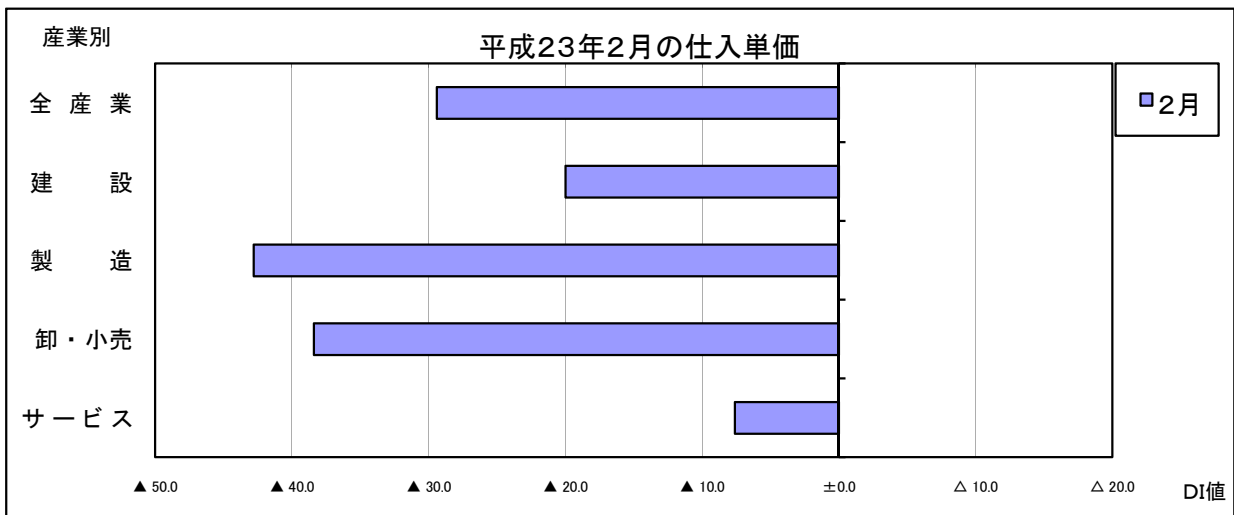
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同▲27.2)、建設業▲20.0(同▲31.2)、製造業▲42.8(同▲46.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲38.4(同▲30.7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.2(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が▲11.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲35.7)、建設業▲20.0(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲57.1(同▲7.1)、卸小売業▲38.4(同▲26.9)である。特に、製造業はマイナス幅が▲50.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲23.8	▲23.6	▲21.9	▲32.3	▲33.3	▲29.4	▲35.2(▲24.2)
建設	▲33.3	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲31.2	▲20.0	▲20.0(▲21.4)
製造	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲28.5	▲46.1	▲42.8	▲57.1(▲7.1)
卸・小売	▲20.0	▲26.6	▲20.6	▲34.6	▲30.7	▲38.4	▲38.4(▲26.9)
サービス	▲16.6	▲26.6	▲21.4	▲42.8	▲27.2	▲7.6	▲23.0(▲35.7)



【平成23年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.4(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が△9.2ポイント縮小した。

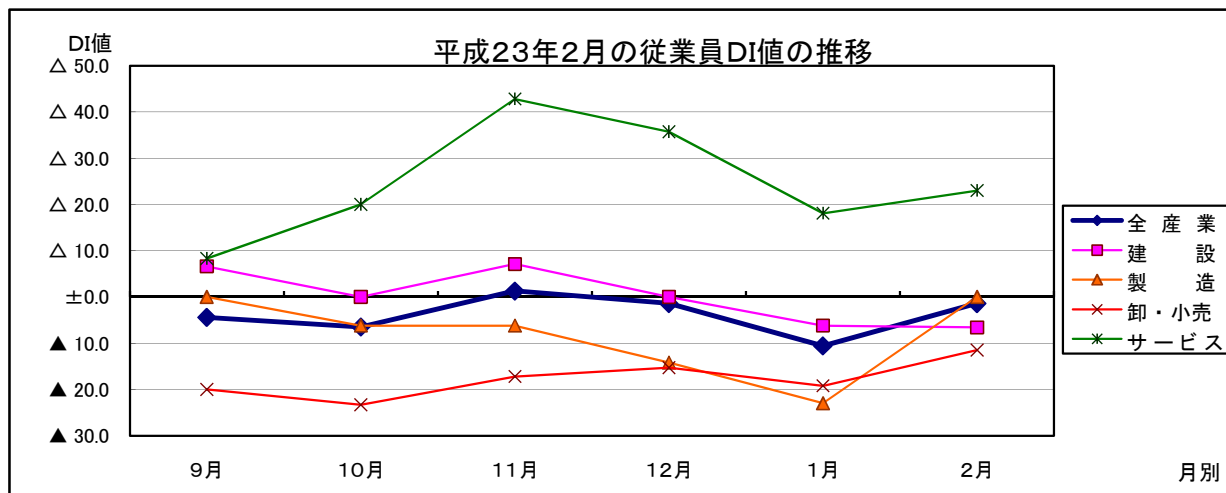
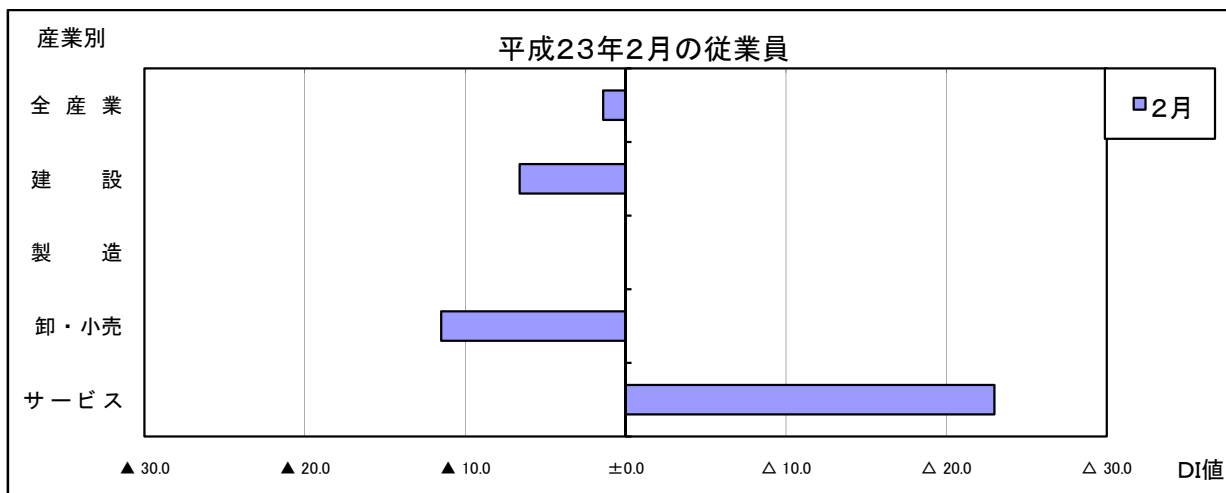
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△23.0(同△18.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲23.0)、卸小売業▲11.5(同▲19.2)である。特に、製造業はマイナス幅が△23.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲6.6(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.8(前月水準▲7.5)となり、マイナス幅が△1.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲7.1(同▲15.3)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲15.3(同▲15.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△23.0(同△27.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲13.3(同▲12.5)である。

平成23年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲4.4	▲6.5	△1.3	▲1.4	▲10.6	▲1.4	▲5.8(▲7.5)
建設	△6.6	±0.0	△7.1	±0.0	▲6.2	▲6.6	▲13.3(▲12.5)
製造	±0.0	▲6.2	▲6.2	▲14.2	▲23.0	±0.0	▲7.1(▲15.3)
卸・小売	▲20.0	▲23.3	▲17.2	▲15.3	▲19.2	▲11.5	▲15.3(▲15.3)
サービス	△8.3	△20.0	△42.8	△35.7	△18.1	△23.0	△23.0(△27.2)



【平成23年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.4(前月水準▲18.1)となり、マイナス幅が▲8.3ポイント拡大した。

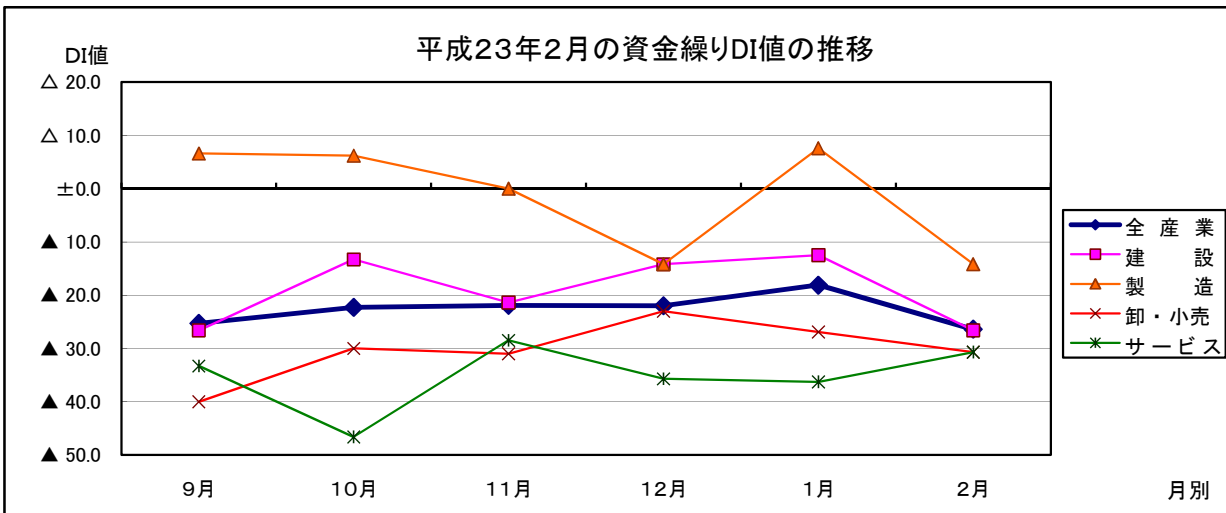
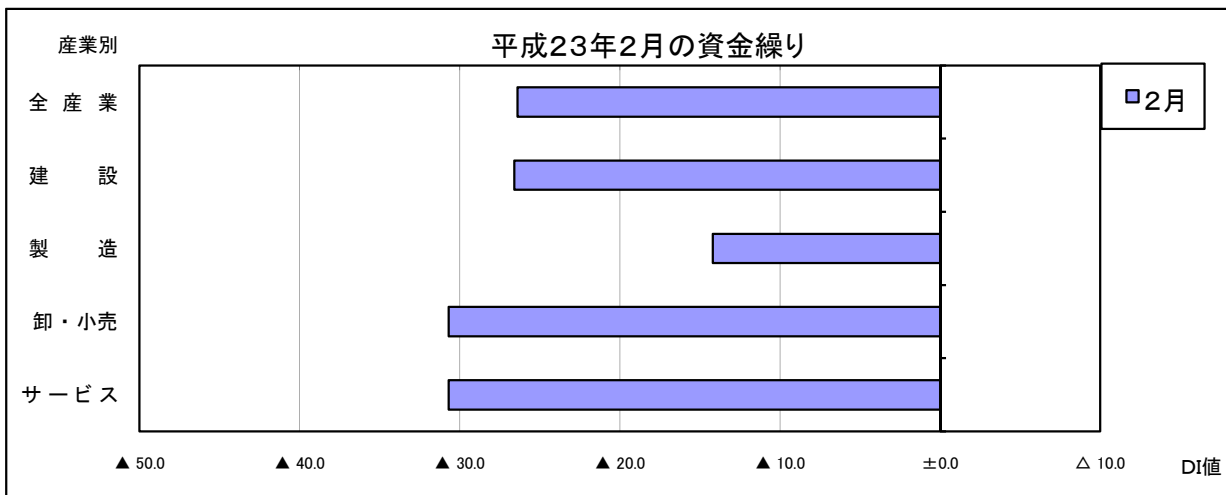
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲30.7(同▲36.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△7.6)であり、▲21.8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲12.5)、卸小売業▲30.7(同▲26.9)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.5(前月水準▲19.6)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲23.0)、サービス業▲15.3(同▲27.2)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲23.0(同▲23.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲33.3(同▲6.2)であり、マイナス幅が▲27.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成23年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲25.3	▲22.3	▲21.9	▲22.0	▲18.1	▲26.4	▲20.5(▲19.6)
建設	▲26.6	▲13.3	▲21.4	▲14.2	▲12.5	▲26.6	▲33.3(▲6.2)
製造	△6.6	△6.2	±0.0	▲14.2	△7.6	▲14.2	▲7.1(▲23.0)
卸・小売	▲40.0	▲30.0	▲31.0	▲23.0	▲26.9	▲30.7	▲23.0(▲23.0)
サービス	▲33.3	▲46.6	▲28.5	▲35.7	▲36.3	▲30.7	▲15.3(▲27.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.2	▲ 4.4	▲ 33.8	▲ 22.0	▲ 29.4	▲ 35.2	▲ 1.4	▲ 5.8
建設	±0.0	▲ 20.0	▲ 46.6	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 13.3
製造	△ 14.2	±0.0	±0.0	▲ 21.4	▲ 42.8	▲ 57.1	±0.0	▲ 7.1
卸・小売	▲ 23.0	△ 3.8	▲ 46.1	▲ 19.2	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 11.5	▲ 15.3
サービス	▲ 38.4	▲ 7.6	▲ 30.7	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 23.0	△ 23.0	△ 23.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 36.7	▲ 22.0	▲ 26.4	▲ 20.5
建設	▲ 20.0	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 33.3
製造	▲ 28.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 7.1
卸・小売	▲ 50.0	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 23.0
サービス	▲ 38.4	▲ 15.3	▲ 30.7	▲ 15.3

【平成23年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	住宅エコポイント、既存住宅活性化事業等の助成金を利用して、業績を維持しているが、先行きが不透明なため消費マインドが低迷している	住宅エコポイント 先行き不透明 消費意欲低迷	一般土木建築工事業
	売上高はわずかながら上昇してきているが、材料の単価も上がっている。適正な価格と思えない程金額を提示され、理解に苦しむ	売上微増 原材料高騰 適正価格	電気工事業
製造業	為替については昨年秋口での想定よりも若干円安に動いているため為替差益が生じる。来月も円安傾向を期待する。	為替動向 円高期待	ガラス・同製品製造業
	円高に歯止めがかからず現状の相場では大手製造メーカーの海外生産部品の現地調達にはさらに加速し日本の中小零細製造業は縮小していかざるを得ない。エコポイントや自動車の減税など所詮は国内需要に対する一時的な措置であり、輸出が回復しない限りは景気の状態は変化しないであろう。大手メーカーは海外で生産し、北米欧米に輸出し、開発のみ日本国内で行うという図式が固定化すれば日本国内での量産は減少どころか消滅してしまうだろう。コア技術と今まで考えられていた独自の技術も設備メーカーの海外進出によってさらに流出し、日本と同様の技術を海外でも展開できるようになっている。大手メーカーは海外生産により利益を上げ、それをいままで下支えしてきた中小零細企業は消滅せざるを得ないだろう。雇用についても今まで製造業にかかわる人間が受注を海外に奪われることにより失業する方向に進むために、さらに悪化するだろう。一時しのぎの対策は何の意味も持たない。為替に対する危機感を行政ほど仕事量の減少で競争が年々厳しくなり、先行き販売価格の減少が考えられる	海外生産 国内需要 中小企業縮小 エコポイント 海外進出 技術流出 雇用悪化	その他の金属製品製造業
	新聞上ではコンビニ、スーパーマーケットの売上げが伸びているとの記事が目につくが実際の消費が好景気状態になってきているのかが実感できない。結果としてお客様の設備導入につながっていないように思う 公共事業の減少、案件の長期化により景況が悪化している	仕事量減少 競争激化 販売価格減少 好景気実感なし	一般産業用機械設備製造業 その他の機械・同部分品製造業
		公共事業減少 景況悪化	特殊産業用機械製造業
		仕事量減少 競争激化 販売価格減少 好景気実感なし	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	1月は創業180周年企画初売り等、前年より取り組み強化をして臨みました。入店客数は+2.1%上昇。平均気温は下降したものの、好天に恵まれたことも入店客数増、売上増につながったと思われます。	周年事業 入店客数増加 天候の影響 売上増加	百貨店
	値上げが予定されているコーヒー等は昨年比130~150%と伸びているが、3月より単価も上昇し、売値に反映させるとしばらくの間買い控えになる。その他の商品についても原価が上がってきているが、今のところ売値に反映させられないため、利益幅が小さくなっている。	コーヒー値上げ 買い控え 売上増加 単価上昇 価格転嫁 買い控え	その他の各種商品小売業(従業員が常時50人未満のもの)
	本当に日本はTPPを必要としているのであろうか。農業だけでなく他の産業も含め、大きな問題であるのに、あまり議論されていない	TPP	各種食料品小売業
	野菜では一部入荷減の高値商品があり、春物野菜の入荷が見込まれる中、主要品目の取扱高も数量ともやや減少している。果実は入荷減単価高の推移で取扱高は前年並みの状況。昨今は流通だけでなく食の変化もあり、注文などでは消費者目線と生産者への情報のかけ橋が欠かせない たばこが全体を押し上げている。おでん等暖かい物が好調	春物野菜 果実入荷減単価高 食の変化	食料・飲料卸売業
	小麦粉、砂糖、チョコレート、油脂、コーヒー等全ての原材料が値上がり傾向で深刻に	たばこ好調 原材料高騰	その他の各種商品小売業(従業員が常時50人未満のもの) 菓子・パン小売業
	セールを開催したため売上は増ですが採算ベースは減少です。新学期商材に出遅れがあり、下旬に前年並みに移行。売上増の見込みですが、利益は当分減少の見込み	セール開催 新学期商戦 利益減少	その他の飲食料品小売業
	3カ月で同業他社へ切替件数が約50件。価格改正の影響大。	価格改正の影響	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	市内書店の撤退が相次いでいるがそもそもオーバーフロアの状況に加え、売上不振、万引き増加による収益圧迫といった要因が推察され、決して他人事ではない現実に直面しております	オーバーフロア 同業者の撤退 売上不振 収益圧迫	書籍・文房具小売業

【平成23年2月の業種別業界内トピックス】

	<p>毎年のことながら3～5月は新学期の売り上げ増が見込まれます。今年には特に学習指導要領の改訂により、ゆとり教育より昔の教育に変わります。期待大です。</p> <p>陽気が寒く春物商品が動かない。価格の安い衣料品、装飾品は売れているが、高額商品は売れていない。消費者の購買意欲は依然低い</p>	<p>新学期商戦 学習指導要領改訂 売上増加</p>	<p>書籍・文房具小売業</p>
	<p>2月中旬までセールを開催したものの、クリアランス商材不足に加え気温が低下したことから客足が鈍く、売上は前年を下回る低調な出足となった。バレンタイン商戦は降雪の影響もあり、直前に集中したものの、売上高は大きく落ち込みを見せた。中旬以降入店客数は回復しつつあるものの顧客の手堅い消費により買い上げ点数の減少、高額商品の不振、買い回り低下によりレジ客数の減少から、売上高は低調な推移が続いてい</p> <p>原油高騰に伴う塗料シンナー類の価格上昇が心配</p>	<p>春物商戦 高額商品不振 購買意欲低迷</p> <p>セール開催 天候の影響 売上低調 バレンタイン商戦 購買意欲低迷 高額商品不振</p>	<p>その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)</p> <p>各種商品小売業</p>
		<p>原油高騰 価格上昇</p>	<p>塗料卸売業</p>
サービス	<p>宿泊の予約経路が直接からインターネット経由に変わったため、稼働は若干伸びたが一室単価を落とすことになり、利益率の悪化となる。小麦トウモロコシの値上がり等により、牛肉を含めた仕入価格の値上がりが不安である。</p>	<p>インターネット予約 稼働率微増 利益率悪化 原材料高騰</p>	<p>ホテル</p>
	<p>サービス業飲食店のなかで今一番悪化しているのが居酒屋。社員を解雇し経費の削減を図った</p>	<p>経営不振 経費節減</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
	<p>従業員を募集すると応募者は多数来るが、採用できる人はいない</p>	<p>従業員募集</p>	<p>獣医業</p>

◎原材料高騰

- ・ 売上高はわずかながら上昇してきているが、材料の単価も上がっている。適正な価格と思えない程金額を提示され、理解に苦しむ 電気工事業
- ・ 小麦粉、砂糖、チョコレート、油脂、コーヒー等全ての原材料が値上がり傾向で深刻に 菓子・パン小売業
- ・ 原油高騰に伴う塗料シンナー類の価格上昇が心配 塗料卸売業
- ・ 宿泊の予約経路が直接からインターネット経由に変わったため、稼働は若干伸びたが一室単価を落とすことになり、利益率の悪化となる。小麦トウモロコシの値上がり等により、牛肉を含めた仕入価格の値上がりが不安である。 ホテル

◎購買意欲低迷

- ・ 住宅エコポイント、既存住宅活性化事業等の助成金を利用して、業績を維持しているが、先行きが不透明なため消費マインドが低迷している 一般土木建築工事業
- ・ 陽気が寒く春物商品が動かない。価格の安い衣料品、装飾品は売れているが、高額商品は売れていない。消費者の購買意欲は依然低い その他の各種商品小売業
- ・ 売上高は大きく落ち込みを見せた。中旬以降入店客数は回復しつつあるものの顧客の手堅い消費により買い上げ点数の減少、高額商品の不振、買い回り低下によりレジ客数の減少から、売上高は低調な推移が続いている 各種商品小売業

◎春物・新学期商戦


- ・ セールを開催したため売上は増ですが採算ベースは減少です。新学期商材に出遅れがあり、下旬に前年並みに移行。売上増の見込みですが、利益は当分減少の見込み その他の飲食料品小売業
- ・ 毎年のことながら3～5月は新学期の売り上げ増が見込まれます。今年は特に学習指導要領の改訂により、ゆとり教育より昔の教育に変わります。期待大です。 書籍・文房具小売業











平成23年2月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.7に対し、「CCI-LOBO」が▲40.1で、柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.2に対し、「CCI-LOBO」が▲34.0で、柏の方がマイナス幅が20.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種において良く、建設業・製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.8に対し、「CCI-LOBO」が▲38.4で、柏のほうがマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.4に対し、「CCI-LOBO」が▲26.0で、柏の方がマイナス幅が3.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.4に対し、「CCI-LOBO」が▲10.8で、柏の方がマイナス幅が9.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.4に対し、「CCI-LOBO」が▲24.7で、柏の方がマイナス幅が1.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業。











平成23年2月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI








業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.7	 20.0	 28.5	 50.0	 38.4
CCI LOBO	 40.1	 50.9	 29.8	 38.7	 48.0


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.2	 ±0.0	 14.2	 23.0	 38.4
CCI LOBO	 34.0	 48.6	 17.1	 34.4	 43.0


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.8	 46.6	 ±0.0	 46.1	 30.7
CCI LOBO	 38.4	 52.8	 31.3	 33.1	 47.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 29.4	 20.0	 42.8	 38.4	 7.6
CCI LOBO	 26.0	 30.6	 32.8	 13.6	 30.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.4	 6.6	 ±0.0	 11.5	 23.0
CCI LOBO	 10.8	 23.0	 11.3	 6.9	 6.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.4	 26.6	 14.2	 30.7	 30.7
CCI LOBO	 24.7	 38.1	 20.4	 22.0	 29.6

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成23年2月21日～25日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数68

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	12.5	▲51.7	▲28.5
12月	▲39.7	▲28.5	▲14.2	▲53.8	▲50.0
1月	▲28.7	▲12.5	▲30.7	▲38.4	▲27.2
2月	▲36.7	▲20.0	▲28.5	▲50.0	▲38.4
見通し	▲22.0	▲26.6	▲7.1	▲30.7	▲15.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DI 5カ月間で上下を繰り返す 業況感安定せず

2月の全産業合計のDI値前年同月比ベース、以下同じは、36.7(前月水準 28.7)となり、マイナス幅が 8.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナ幅が縮小した業種は、製造業 28.5(同 30.7)である。マイナ幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業 50.0(同 38.4)。

4、サービス業 38.4(同 27.2)、建設業 20.0(同 12.5)である。

【製造業】からは、「為替については昨年秋口での想定よりも若干円安に動いているため為替差益が生じる。来月も円安傾向を期待する」(ガラス・同製品製造業)、「円高に歯止めがかからず現状の相場では大手製造メーカーの海外生産部品の現地調達ほさらに加速小していかざるを得ない。エコポイントや自動車の減税など所詮は国内需要に対する一時的な措置であり、輸出が回復しない限りは景気の状態は変化しないであろう」(その他の全属製品製造業)、「仕事量の減少で競争が年々厳しくなり、先行き販売価格の減少が考えられる」(一般産業用機械設備製造業)、「新聞上ではコンビニ、スーパーマーケットの売り上げが伸びているとの記事が目につくが実際の消費が好景気状態になっきているのかが実感できない。結果としてお客様の設備導入につながっていないように思う」(その他の機械・同部分品製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「1月は

創業180周年企画初売り等、前年より取り組み強化をして臨みました。入店客数は+2.1%上昇。平均気温は下降したものの、好天に恵まれたことも入店客数増、売上増につながったと思われる」(百貨店)、「たばこが全体を押し上げている。おでん等暖かい物が好調」(その他の各種商品小売業)、「3カ月で同業他社へ切替件数が約50件。価格改正の影響で」(燃料小売業)、「市内書店の撤退が相次いでいるがそもそもオンラインフロアの状況に加え、売上不振、万引き増加による収益圧迫といった要因が推察され、決して他人事ではない現実に直面しております」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「サービス業飲食店のなかで今一番悪化しているのが居酒屋。社員を解雇し経費の削減を図った」(酒場・ビヤホール)、「従業員を募集すると応募者は多数来るが、採用できる人はいない」(獣医療)などの声が寄せられた。

2月の景気キーワード

原材料高騰

各業種から、「売上高はわずかながら上昇してきている

が、材料の単価も上がっている。適正な価格と思えない程金額を提示され、理解に苦しむ」(電気工事業)、「小麦粉、砂糖、チョコレート、油脂、コーヒー等全ての原材料が値上がり傾向で深刻に」(菓子・パン小売業)、「原油高騰に伴う塗料シンナー類の価格上昇が心配」(塗料卸売業)、「宿泊の予約経路が直接からインターネット経由に変わったため、稼働は若干伸びたが一室単価を落とすことになり、利益率の悪化となる。小麦トウモロコシの値上がり等により、牛肉を含めた仕入価格の値上がり不安である」(ホテル)などのコメントが寄せられた。

購買意欲低迷

各業種から、「住宅エコポイント、既存住宅活性化事業等の助成金を利用して、業績を維持しているが、先行きが不透明なため消費マインドが低迷している」(一般土木建築工事業)、「陽気が寒く春物商販が動かない。価格の安い衣料品、装飾品は売れているが高額商品は売れていない。消費者の購買意欲は依然低い」(その他の各種商品小売業)、「売上高は大きく落ち込みを見せた。中旬以降入店客数は回復しつつあるものの顧客の手堅い消費により買い上

げ点数の減少、高額商品の不振、買い回り低下によりレジ客数の減少から、売上高は低調な推移が続いている」(各種商品小売業)などの声が上がってきた。

春物・新学期商戦

各業種から、「セールを開催したため売上は増ですが採算ベースは減少です。新学期商材に出遅れがあり、下旬に前年並みに移行。売上増の見込みですが、利益は半分減少の見込み」(その他の飲食料品小売業)、「毎年、ことながら3~5月は新学期の売り上げ増が見込まれます。今年は特に学習指導要領の改訂により、ゆとり教育より昔の教育に変わります。期待大です」(書籍・文房具小売業)などの声が寄せられた。

CCI LOBOJの比較

全産業合計では、「柏の景気」が36.7に対し、「CCI LOBOJ」が40.1で、柏の方がマイナ幅が3.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成23年2月15日～21日

調査対象：全国の408商工会議所が2689業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIはわずかに悪化 原材料価格の高騰が響く

2月の全産業合計の業況DIは、40.1(前月比1.4ポイント)と、3カ月ぶりにマイナス4.0台となった。原材料価格の高騰に加え、企業間競争の激化、消費者の低価格志向や経済対策の縮小に伴う売上の悪化、円高の長期化などが経営環境に悪影響を及ぼしている。

先行きについては、先行き見通しDIは34.3(前月比+4.3ポイント)と2カ月連続でマイナス幅が縮小した。新興国向け輸出・生産の拡大に加え、春先需要などこれまで低迷していた消費に動きがみられることから、売上回復への期待が寄せられている。一方で、原油をはじめ原材料価格は今後一段の上昇が見込まれており、先行きへの懸念を訴える声も多い。

【建設業】「公共・民間工事とも受注の増加が期待できず、今後も厳しい経営環境が続く見通し」(一般土木建築工業業)、「鋼材の仕入価格が上昇している一方、受注は低価格の案件が中心のため、収益確保の見通しが立たない」(建設工業業)、「小規模の案件にも大手住宅販売業者が参入している影響で、地元業者の売上が悪化し、廃業が目立っている」(板金・金物工業業)

【製造業】「円高の影響で取引先からのコストダウン要請があり、厳しい経営状況」(自動車・同附属品製造業)、「中国をはじめアジア諸国の需要が旺盛なことから、海外からの材料調達に困難になっている」(建設・建築用金属製品製造業)、「前年の猛暑や天候不順の影響で野菜の収穫量が減少し、仕入価格が上昇」(その他の食料品製造業)

【卸売業】「ガソリン価格の上昇により燃料費負担が大きくなり、経営は厳しい」(各種商品卸売業)、「大雪の影響で商品の仕入の遅れや物流コストの上昇により、採算が悪化」(各種商品卸売業)、「家電エレクトロニクスの縮小により、12月以降売上が激減」(電気機器器具卸売業)

【小売業】「一部の新商品や話題商品の売上は好調なもの、消費は依然として冷え込んでいる」(総合スーパー)、「気温の低下や積雪により冬物商品の売上が好調

も、春物商品は売上が伸び悩んでいる」(総合スーパー)、「購入単価が若干回復傾向にあるため、今後の売上改善を期待」(商店街)

【サービス業】「来客数の減少に加え、食材の仕入価格、ガス料金の上昇により経営環境が厳しく、廃業する店舗が相次いでいる」(その他の一般飲食店)、「消費者の低価格志向が強くなり、販売単価が伸び悩んでいる」(食卓、レストラン)、「3月から春の観光シーズンが始まるので、宿泊客数の増加を期待」(旅館)

2月のキーワード

原材料価格の高騰
原材料・食料価格の高騰を背景に、仕入価格が上昇し、幅広い業種から採算の悪化を訴える声が寄せられている。

「燃料価格が上昇し採算が悪化している。経費削減は限界に達しており、経営状況が厳しい」(瀬戸・陶磁器・同関連製品製造業)、「異常気象による生産の減少に加え、新興国の需要増等により、主力商品である小麦、砂糖、食用油の価格が高騰している」(長崎・農畜産・水産物卸売業)、「野菜、肉の仕入価格の

高止まりに加え、今月から食用油の仕入価格も上昇し、採算が厳しい」(今治・旅館)

進む価格転嫁
仕入価格の上昇に対し、売上の減少が懸念されることから、販売価格への転嫁が難しく、収益に悪影響が及んでいるとの声が多い。

「オーストラリアにおける洪水の影響で、石炭や鉄鉱石の仕入価格が上昇する一方、取引先に対して価格転嫁できずおらず、採算が悪化」(静岡・金属加工機械製造業)、「取引先からの加工費の値下げ要求が厳しい。仕入価格上昇分の製品への値上げができず、収益が圧迫されている」(東京・ブリキ缶等製品製造業)、「原材料の仕入価格が高止まりしているが、販売価格に転嫁できず経営状況が厳しい」(銚子・その他の一般飲食店)

厳冬の影響
今冬の大雪や気温の低下により、除雪作業や冬物商品の売上の増加につながった一方、来客数の減少など、悪影響を訴える声も寄せられている。

「大雪により除雪の依頼が多くなり、一時的に受注が増加」(盛岡・一般土木建築工業業)、「寒い日が続いたこと

から、スタッドレスタイヤや等季節商品の売上が好調だった」(三島・その他の小売業)、「2月は天候不順に加え、寒い日が続いたことから、来客数が減少し、この1年間で売上・利益が最も落ち込んだ」(京都・商店街)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲36.4	▲48.9	▲24.7	▲30.1	▲37.4	▲41.5
10月	▲40.5	▲54.4	▲23.3	▲34.6	▲45.6	▲46.7
11月	▲40.6	▲51.5	▲27.7	▲41.3	▲41.8	▲45.3
12月	▲38.1	▲50.7	▲27.1	▲26.3	▲39.1	▲45.0
1月	▲38.7	▲48.7	▲26.8	▲36.4	▲37.4	▲46.8
2月	▲40.1	▲50.9	▲29.8	▲33.8	▲38.7	▲48.0
見通し	▲34.3	▲47.2	▲33.3	▲23.1	▲32.4	▲33.3

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI